



「日・モザンビーク官民インフラ会議」及び 「日・タンザニア官民インフラ会議」の結果概要について

国土交通省は、1月12日から14日にかけて、モザンビーク及びタンザニアにおいて、JETRO及び相手国政府との共催で二国間官民インフラ会議を開催しました。

会議に併せて、西脇国土交通審議官が同行日本企業とともに、モザンビークにおいては、レベロ運輸通信副大臣等を、タンザニアにおいてはムバラワ建設運輸通信大臣を表敬し、日本と相手国とのインフラ分野における協力関係の推進等について会談しました。

また、日・タンザニア官民インフラ会議においては、マジヤリワ首相が出席され、会議冒頭の挨拶をされました。

各概要は、以下のとおりです。

1. 日・モザンビーク官民インフラ会議

(1) 日時 : 平成28年1月12日（火） 9:30～17:30

(2) 場所 : モザンビーク国マプト市内 インディーコンGRES ホテル&スパ

(3) 主催 : (日本側) 国土交通省、JETRO (モザンビーク側) 運輸通信省

(4) 参加者 : 約250人

(日本側) 国土交通省（西脇国土交通審議官）、JETRO（米谷理事）、在モザンビーク日本国大使館（水谷大使）、JICA、日本企業（建設、商社、エンジニアリング、コンサル、建設機械等 計25社）

(モザンビーク側) 運輸通信省（レベロ副大臣）、公共事業省、関係公社総裁、駐日大使、モザンビーク企業 等

(5) 会議概要 :

会議冒頭、西脇国土交通審議官、レベロ運輸通信副大臣等が挨拶を行い、会議の開催を歓迎しました。日本企業13社より「質の高いインフラ」の事例やインフラ関連技術等について紹介した後、テーマ別ワークショップにおいて、インフラの維持管理やライフサイクルコスト・環境配慮技術等についてモザンビーク側の参加者と意見交換を行いました。

また、日本企業とモザンビーク企業のビジネスマッチングを行い、両国企業の連携の推進を図りました。

会議全体を通じて、インフラ整備に係る「質の高さ」について活発な意見交換がなされ、日本が提唱する「質の高いインフラ投資」やライフサイクルコスト等の考え方について共有しました。

また、西脇国土交通審議官は、会議同行企業とともに運輸通信省（レベロ運輸通信副大臣）等を訪問しました。



<冒頭挨拶>



<日本企業とのレバロー運輸通信副大臣表敬>



<会議の様様>



<ビジネスマッチングの様様>

2. 日・タンザニア官民インフラ会議

(1) 日時 : 平成28年1月14日(木) 9:30~17:30

(2) 場所 : タンザニア国ダルエスサラーム市内 キリマンジャロ ホテル

(3) 主催 : (日本側) 国土交通省、JETRO
(タンザニア側) 建設運輸通信省、T I C (Tanzania Investment Center)、
在京タンザニア大使館 等

(4) 参加者 : 約230名

(日本側) 国土交通省(西脇国土交通審議官)、JETRO(米谷理事)、在タンザニア日本国大使館(吉田大使)、JICA、日本企業(建設、商社、エンジニアリング、コンサル、建設機械等)計29社

(タンザニア側) マジャリワ首相、建設運輸通信省(ンゴニヤニ副大臣)、
T I C(カイルキ総裁)、関係公社総裁、タンザニア企業 等

(5) 会議概要 :

会議開催にあたり、マジャリワ首相がスピーチを行い、日本の支援が持続可能な経済成長の助けになることに感謝しつつ、開発計画に基づいた取組を推進していく旨発言がありました。また、建設分野でのPPPの活用や、道路、鉄道、港湾、空港の各種プロジェクトに言及し、日本とタンザニア企業との間でJV等が形成されることについても期待を表明しました。

日本企業14社から「質の高いインフラ投資」にかかる先進事例やインフラ関連技術等について紹介するとともに、タンザニア道路・港湾・鉄道・空港公社より、タンザニアにおける各セクターのインフラ整備の現状及び今後の需要について、発表がなされました。

テーマ別にワークショップ、ビジネスマッチングを実施し、活発な情報交換が行われました。

西協国土交通審議官は、翌15日、会議同行企業とともに建設運輸通信省（ムバラワ大臣）を訪問しました。



<マジャリワ首相冒頭挨拶>



<日本企業とのムバラワ建設運輸通信大臣表敬>



<マジャリワ首相>



<会議の様相>



<ワークショップの様相>



<ビジネスマッチングの様相>

<問い合わせ先> 国土交通省総合政策局国際政策課（グローバル戦略） 大澤、芝原
電話 03-5253-8111（内線25216、25205）、直通 03-5253-8316
FAX 03-5253-1562